【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成25年1月17日(2013.1.17)

【公開番号】特開2011-102255(P2011-102255A)
【公開日】平成23年5月26日(2011.5.26)
【年通号数】公開・登録公報2011-021
【出願番号】特願2009-257281(P2009-257281)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　45/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/196　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　33/24　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/513　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　45/00
Ａ６１Ｋ　31/196
Ａ６１Ｋ　33/24
Ａ６１Ｋ　31/513
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｐ　43/00　１１１
Ａ６１Ｐ　43/00　１２１

【手続補正書】
【提出日】平成24年11月12日(2012.11.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
アルドケト還元酵素１Ｃファミリー（AKR1C）阻害剤を有効成分とする抗癌剤効果増強剤。
【請求項２】
上記アルドケト還元酵素１Ｃファミリー（AKR1C）阻害剤は、AKR1Cに対する選択的阻害作用を有することを特徴とする請求項１記載の抗癌剤効果増強剤。
【請求項３】
上記有効成分は、メフェナム酸であること特徴とする請求項１記載の抗癌剤効果増強剤。
【請求項４】
シスプラチン及び/又はフルオロウラシルにおける抗癌剤効果を増強することを特徴とする請求項１記載の抗癌剤効果増強剤。
【請求項５】
メフェナム酸を有効成分とするシスプラチン及び/又はフルオロウラシルの抗癌剤効果増強剤。
【請求項６】
シスプラチン及び/又はフルオロウラシルの投与効果を増強する、メフェナム酸のアルドケト還元酵素１Ｃファミリー（AKR1C）阻害剤としての使用。

【請求項７】
アルドケト還元酵素１Ｃファミリー（AKR1C）阻害剤を有効成分とする抗癌剤効果増強剤と抗癌剤とを含む、抗癌剤キット。
【請求項８】
上記アルドケト還元酵素１Ｃファミリー（AKR1C）阻害剤は、AKR1Cに対する選択的阻害作用を有することを特徴とする請求項７記載の抗癌剤キット。
【請求項９】
メフェナム酸と抗癌剤とを含む抗癌剤キット。
【請求項１０】
上記抗癌剤は、シスプラチン又はフルオロウラシルであることを特徴とする請求項７又は９記載の抗癌剤キット。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
一方、シスプラチン以外にも抗癌剤としてフルオロウラシル（5-FUと略称される）が知られている。フルオロウラシルは、ピリミジン系代謝拮抗剤に分類される。フルオロウラシルは、ウラシルの代わりに癌細胞に取り込まれることで、そのDNAの合成を阻害し、抗腫瘍効果を示す。また、フルオロウラシルの投与効果は、症例によってばらつきがあり、一部の患者に対しては全く奏功しないことが知られている。したがって、シスプラチンと同様に、フルオロウラシルについても実際の臨床でシスプラチン耐性を克服するような治療法・治療薬が求められている。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
以下、本発明に係る抗癌剤効果増強剤及び抗癌剤キットに関して詳細に説明する。本発明に係る抗癌剤効果増強剤は、アルドケト還元酵素１Ｃファミリー（AKR1C）阻害剤を有効成分とするものである。ここで、本発明に係る抗癌剤効果増強剤及び抗癌剤キットにおいて、抗癌剤としては、特に限定されないが、白金等の金属錯体を形成する物質を主成分とするもの、及びピリミジン等の核酸代謝物のアナログからなる代謝拮抗物質を主成分とするもの等を挙げることができる。金属錯体を形成する抗癌剤としては、例えばシスプラチン及びカルボプラチンを挙げることができる。また、代謝拮抗物質を主成分とする抗癌剤としては、例えば、メトトレキセート、メルカプトプリン、６－チオグアニン、フルオロウラシル（5-FU）及びシタラビンン等を挙げることができる。特に、本発明に係る抗癌剤効果増強剤及び抗癌剤キットにおいて、効果増強対象の抗癌剤としては、シスプラチン及び/又は5-FU系抗癌剤とすることが好ましい。なお、5-FU系抗癌剤とは、フルオロウラシル及びフルオロウラシルと同様な作用機序によって抗癌効果を示す物質を含む意味である。